



夢がかないました

陈 爽
CHEN SHUANG

私は3年目になった今年の3月に、生まれて初めてマラソンに出場しました。

それは、名古屋ウィメンズマラソンという女性だけの世界最大の大会で、今年も2万3千人以上が参加しました。

私は日本へ来てすぐの頃にポスターを見て知りましたが、その時には自分が出るとは思っていませんでした。

実習生2年目になったある日、いつも日本語や仕事を教えてくれているおじさんから「仕事も日本語も頑張っているけど、日本で何かしたいことは無いの」と聞かれました。

考えてみれば、実習生として仕事や技術を習得し、両親の生活を少しでも豊かにしてあげたい、そのことだけで頑張ってきた2年間でした。自分のことはすっかり忘れていて、最初は何も思いつきませんでした。

私は元々走ることが好きで、中国でも休みの日には一人でゆっくり走っていましたし、マラソンに出ることが夢のひとつでした。

私は出来るかどうか分からないまま、「名古屋のマラソンに出たい」と答えました。

最初は「本気か」とびっくりしていましたが、「でもすごい、面白いよ」と言って協力することを約束してくれて、色々と調べたり準備を手伝ってもらいました。

出場決定の抽選にも運よく当選しました。

大会の前日には会場でゼッケンをもらい、期待と不安が高まっていました。おじさんから

「手伝えるのはここまで、明日は女性だけで自分は受付へも行けない。あとは練習してきた走りと、勉強してきた日本語で、一人で最後まで頑張ってくれ」と言われました。

当日の朝、自分の列に並んだ時には、とても緊張していましたが、周りから「楽しもう」という声が聞こえ、スタートの合図で前の方が動き始めた時には、自分も楽しもうと思えるようになっていました。

たくさんの人と走るのがとてもうれしく、いつもよりも軽快に走り出すことが出来ました。走っていると、たくさんの応援の人や水をくれるボランティアの人も、知らない私にも手を振って、「がんばれー」と声援を送ってくれました。その声に背中を押されているようで、途中からの雨も少しも冷たく感じることも無く、走り続けることが出来ました。私を支えてくれたおじさんも、傘をさしながら場所をかえ、何度も応援してくれました。

私は最後まで一度も止まらず、予想よりも20分も早く完走することが出来、周りの人といっしょに両手をあげてゴールしました。

私は実習に来た日本で、たくさんの日本の人の応援をもらって、夢をかなえることが出来ました。とても感謝しています。

これからも家族を一番に思い、少しでも役に立てるようになりたいと思います。でも、自分自身のために何かをする、ということも大切にしていきたいと思います。